

## 第6学年 総合的な学習の時間の実践

1 単元名 「小田原の未来を守る 人口減少改善プロジェクト」(全40時間 本時16時間目)

### 2 単元目標

単元  
目標

人口減少という小田原市の問題について知り、その問題に対して、自分たちにできることを考え取り組んでいく活動を通して、小田原市のこれからの在り方や自分自身の生き方を考えることができる。

### 3 ひびきあう三の丸の子どもたちをめざすための指導の工夫



研究課題・・・子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成  
手だて・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ「仲間への理解、自立する自分」

・仲間へ共感しつつ、自分の思いも大切に作る姿 ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

#### <聴く・話すについての指導>

「聴く」「話す」について児童とともに目標作りを進めてきた。聴くの目標の中には『話しやすい空気』というのを位置づけた。具体的には、『相手を見る、手いたずらしない、うなずき』などが挙げられる。相手が話しやすい空気を作ることで、発言もしやすくなり深まっていく。話し合いなどの時に繰り返し、目標に立ち返りながら指導をした。

「話す」については、自分の話をする時に短く話すことや根拠を示すといった基本的なことだけでなく、話し合いを深めるための『司会言葉』というのも指導した。例えば、「この意見について賛成の人は意見を教えてください。」「今の意見について、近くの人と話し合ってください。」といった司会進行をする言葉を誰もが普段の授業の中で使っていけるように教えた。特別司会者を設定しなくても、自分たちで話し合いが少しずつできるようになってきた。これらの『聴く・話す』については、授業の最後の場面や帰りの会などに、「クラスの聴く・話すどれを頑張れた？」と児童に自己評価をさせるようにした。また、その際特に頑張っていた子を取り上げてほめることなどをしながら定着を図るようにしてきた。

#### <これまでの関わり合い・ひびき合い>

関わり合うことを好む児童が多くいるため、授業の中でも自然と交流する姿が多く見られる。とりわけ意見のずれがある際は、熱心に議論をする児童が多い。社会科が好きな児童が多いことから、『江戸時代を安定させるために最も有効だった政策は？』『明治政府は良い政府と言えるのか。』など子どもたちの意見のずれが生まれる問いから話し合いをすることが多くあった。積極的に意見を交流することが多く見られた一方で、全体の場で他の児童に対して、反対意見を言える児童はまだまだ少ない様子が見られた。グループでの関わり合いの中で、意見を伝えることはできるようになってきたが、全体の場で賛成・反対・質問などの関わり合いを生む発言をできる児童は限られていると言える。話し合いなどをする際、できるだけ教師が話し合いに参加しすぎないように、児童に任せるような形を心がけた。

### 4 単元と指導について

#### <単元について>

今回、総合的な学習の時間の単元を設定するにあたり、まずはテーマを決める基準を示した。『みんなの力で取り組めること』『色々な教科や今までの経験を生かして取り組めること』『誰かのため、何かのためになること』この3つを意識してテーマ決定を行った。ウェビングを用いて、取り組むアイデアを出したところ、以下のようなテーマが出てきた。『環境① 環境② 学校 小田原の特産品 小田原のイベント 小田原の穴場スポット 小田原市の問題改善 小田原の歴史(途中で目的が見出せなかったため、他のグループへ合流)』そこからグループに分かれてプレゼンを行い、最も児童がやってみたい、やりがいがあると感じたのが、『小田原市の問題改善』であった。小田原市の問題の中で、とりわけ危機感を感じたのが、『人口減少』のことであった。2017年現在、約19万4000人いる人口が2040年には15万8000人まで減るという予測が立っている。人口が減るということは、税収が減り、市民へのサービスが低下するなど、小田原市に住む人たちにとって、深刻な影響が出てくる。このような事実と出会った彼らは、それを少しでも改善したいという願いのもと取り組みをスタートさせた。

取り組みの第一歩として、人口減少について調べ学習をスタートさせた。インターネットや本、市の広報などをもとに調べていくと、小田原市と南足柄市が合併をするという事実を知る。この合併するという事実に対しても、子どもたちは大変興味を持っていた。「合併するのっていいことなのかな?」「市のパンフレットには、良いことしか書いてないよ。」このような疑問がいくつか出始めた。そこで、パソコンだけでは分からない情報を、小田原市役所の企画政策課の方に直接お話を伺うことにした。『人口減少』『小田原市の合併』この2つの情報を聞く中で、子どもたちはさらに小田原市の未来について探求的に考え始めている。

学習指導要領の指導計画の作成と内容の取扱いにおいて『地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題』を設定することが明示されている。地域の問題『人口減少』『小田原市の合併』どちらも彼らの10年後、20年後の生活にも関わってくる大きな問題である。この問題を追究する中で、小田原市の未来を創るのが自分たちなのだとすることに気付けるような単元を設定していきたい。

#### <指導について>

本時の子どもが解決したい問題は「**小田原市と南足柄市の合併について考えよう。**」である。児童は小田原市の人口減少について改善を目指す中で、それと大きく関わっている『小田原市の合併』ということと出会った。市役所の企画政策課の方から、合併についての情報を教えてもらった際、「ぜひ、小田原市と南足柄市の合併について、君たちなりに考えてもらいたい。」というアドバイスを頂く。人口減少の問題とも密接に関わってくるこの合併の問題について、市役所の方からの投げかけによって、子どもたちは自分たちの街のことをより考えたいと思うようになる。また、子どもたちの中でも、合併のことについて賛成の子もいれば、反対の子もでてきたことで、この問題についてみんなで考えてみたいという気持ちも高まっていく。そのような中で、この合併について子どもたちが考えたい問題へとなっていった。

本時では、『小田原市と南足柄市の合併について賛成か反対かを話し合う。』活動を通して、「**お互いの意見のズレから、より良い合併について話し合う姿をひびき合いの姿**」としていきたい。話し合いの根拠として、合併のメリットの情報は小田原市の広報などでも出ているため、はっきりと提示しやすい。また、数値としての裏付けもしっかりとしている。その反面、反対する側の主張は、数値だけではなく不安という感情である。『南足柄という名前がなくなる。』『サービスが低下するかも』『遠くの地域までサービスが行き届かないかもしれない。』そのような感情の部分も、実は大切だということに気づいてもらいたい。話し合いを通して合併のメリットやデメリットが出た上で、現実問題として合併する可能性が高いことを示す。その上で、『より良い合併にするためにはどうすれば良いのか』ということを改めて問うことで、話し合いをより焦点化していきたい。全ての人が納得する合併はない。しかし、より多くの人に理解してもらえる合併とは何か考えることで、小田原市と南足柄市のこれからについて子どもたちなりに考えていく姿を期待したい。

また、話し合いをする際、意見が合併に賛成派や反対派どちらかに偏る可能性もある。その際、話し合いを深め、焦点化するための資料や発問を用意したい。例えば、『合併をしないままの小田原市のサービス低下のグラフ』、『湯河原町と真鶴町が合併しなかった時の資料』『合併に反対する人へのインタビュー動画や写真付きコメント』などを子どもたちの様子に応じて提示することで、子どもたちの話し合いの中に葛藤が生まれるようにしていきたい。合併のどちらが良いかの結論を出すために話し合いをするのではなく、より考えを深めるための話し合いになるように、教師がより良いタイミングで資料を提示していきたい。

## 5 単元構想

第6学年 総合「小田原の未来を守る 人口減少改善プロジェクト」全40時間



### 単元目標

人口減少という小田原市の問題について知り、その問題に対して、自分たちにできることを考え取り組んでいく活動を通して、小田原市のこれからの在り方や自分自身の生き方を考えることができる。

総合のテーマを考えよう。①～③

国語『言語感覚を豊かにしよう。』と関連させて学習（5時間）

#### 【5年生までの取り組みを振り返る】

- ・フランスの子どもたちとの交流をしたよ
- ・自分たちの地域を紹介する番組作りしました。
- ・聴導犬のことを紹介したよ。
- ・かまぼこ料理の商品開発をした。
- ・木の大切さを伝えるために、劇やポストカードのデザインをしたよ。

#### 【今年は何をやりたい？】

- ・環境のことをやりたいな。
- ・小田原市の海とか汚いよね。小田原の観光客をもっと増やしたいな。
- ・学校も最近、壊れていたりするところがあるから、みんなで直したらどうかな。小田原の魅力を伝えたいな。
- ・小田原市って今、問題になっていることないのかな。小田原の歴史について知りたいな。
- ・グループに分かれて少し調べたいな。みんなで調べたことをプレゼンしよう。
- ・プレゼンして、テーマを決めよう。

これまでの学習を想起し、自分たちの身に付けた力をもとに課題を考えることができる。【課題設定力】

総合のテーマをプレゼンしよう。④～⑦

学校	環境①	環境②	小田原のイベント	小田原の穴場名所	小田原の食べ物	小田原の問題
◆みんなが生活しやすい三の丸にするために取り組みたい。例えば、学校の階段に貼ってあるランキングなどの掲示物を新しくしたい。他にも、ウサギ小屋とかをきれにしたい。	◆地球温暖化について、小田原でできることを考えたい。身近でできる取り組みからやってみる。例えば、ごみの分別、森林の植樹、地球温暖化について学校の人たちに知ってもらおう。	◆地球温暖化やごみ問題について、神奈川での取り組みを知って、改善できることを考えたい。例えば、ごみの分別を学校内や地域に呼び掛ける取り組みをしてみたい。	◆小田原市の観光客をもっと増やすために、小田原のイベントをPRしたい。小田原は箱根と比べると観光客数が少ない。（1500万人の差がある。）	◆小田原市の観光客が増えてきているからこそ、観光客の人がまだ知らない穴場スポットを紹介したい。例えば、かまぼこ通りやなりわい交流館、小田原文学館などを紹介したい。	◆まだ知られていない小田原の特産品を広めたい。下中たまねぎや小田原ワインなど、美味しいものを神奈川県や全国の人に知らせたい。	◆小田原の人口減少を少しでも改善する取り組みがしたい。小田原の人口は、現在の19万人から2040年までに15万人へと減る。人口が減ることで起きる問題を知り、小田原市の人口減少を改善したい。

★小田原の人口減少を改善するために取り組もう。→プレゼンを聞いただけでは、人口減少のことよく分からない。みんなでもう一度調べる時間がほしい。小田原市の人に僕たちも話を聞いてみたい。

人口減少についてパソコンや人から情報を収集することができる。【情報活用力】

人口減少と小田原の人口減少について調べよう。⑧～⑩

#### 【人口減少】

- ・人口が減ると税金を納める人も減ってしまう。
- ・税金を納める人が少なくなると、ぼくたちの学校をきれいに直すお金もないよ。
- ・人口減少が起きるといことは、高齢化にもなりやすい。
- ・働く人が足りなくなってしまう。
- ・医療や介護のサービスができなくなるよ。

#### 【小田原市の人口減少】

- ・現在、小田原市の人口19万4000人→2040年 16万5000人になってしまう。
- ・2005年、小田原市で亡くなる人の数が生まれる人の数を上回ったんだ。
- ・20代、30代の人を外に出ていく割合が高いよ。
- ・外に働きに行く人が多いみたい。
- ・近くの商店街は空き店舗が多いね。
- ・空き家も増えているらしい。

★小田原市役所の人に、もう少し聞いてみよう。

小田原市役所の方に、人口減少のことを聞いてみよう。⑪⑫

#### ◆小田原市の方の話

小田原市の4つの方針 ①安定した雇用を創出する。 ②魅力を発信し、人の流れをつくる。 ③子どもを産み育てやすい環境をつくる ④活力にあふれ、住み続けたいまちをつくる。

#### ◆具体的な案

- ・小田原市では、コンパクトシティを目指して取り組んでいます。
- ・仕事を生み出す。→仕事を誘致。
- ・観光客に来てもらい魅力をアピールする活動をしている。
- ・小田原市の住みやすさをアピール
- ・小田原市と南足柄市の合併【子どもたちの感想】

- ・小田原市も色々な取り組みをしているんだ。
- ・観光客に来てもらう取り組みなら、僕たちにもできるかもね。
- ・小田原市と南足柄市が合併するの知らなかった。

★①僕たちにできることって何かな？→観光客を増やす取り組み、小田原の住みやすさなら動画で伝えられるかも。

★②小田原市と南足柄市の合併っていいのかな？もう少し考えてみたい。

→【賛成】人口が減っていくんだから一緒になれば、人口が増えて税金も増えるよ。サービスも良くなるんじゃない。

【反対】人口は増えても、小田原市が広くなりすぎるよ。市の隅っこに住んでいる人まで、面倒みてもらえるのかな。

・平成30年3月には決まってしまうらしいよ。
- ・僕らの意見って、小田原市の人に伝えられないかな。（18歳以上の市民1万人にアンケートが実施予定）
- ・僕らのまちのことだから、僕たちも意見を伝えたいな。
- 小田原市の合併のこともう少し調べたい。

小田原市と南足柄市の合併について調べてみよう。⑬⑭

- ・小田原市の人口減少で、市に入るお金が減っているみたいだね。
- ・だから合併して、税金を納めてくれる人を増やそうとしているんだ。
- ・少子高齢化で、福祉や子育てのお金も増えているんだね。
- ・小田原市の建物も古くなっているみたい。

○メリット →小田原市のサービスの水準は現状維持できる。10年間で約150億円の節約
- ・新たなサービスが受けられる。

△デメリット →遠くの地域までサービスが行き届かなくなる。行政の中心の場所から離れてしまう。お年寄りの数が増えるため、福祉事業の費用が増加する。

小田原市の合併についてパソコンや人から情報を収集することができる。【情報活用力】

【賛成】

小田原市と南足柄市の合併について考えよう。⑮⑯⑰ 本時⑱

- ・市の広報誌に書いてあったけど、市の税収が平成 42 年度になると 20 億円ダウンするそうです。税金が減ると僕らの暮らしも良くない点が出てくると思うから、税収を維持するために合併は必要だと思う。
- ・合併することで、サービス水準は変えずに 10 年間で約 150 億円の節約になる。
- ・小田原市ではなかったサービスや魅力が南足柄市にもあるから、小田原の良さも増えると思う。

先生や友達の見解、資料を参考にし、小田原市の合併について自分の考えを深めることができる。【問題解決能力】

【反対】

- ・南足柄市の地図を見ると、山の面積が広い。だから、山を維持するお金もかなり必要になってくる。
- ・人口は増えても、一時的に税金が増えるだけだと思う。・土地が広がって中心から離れた遠くの地域まで行政のサービスが行き届かないと思う。
- ・南足柄市の人からすると、自分たちの町の名前がなくなるのはきつと辛い。・合併後の福祉事業にかかるお金が上がると予想されている。

★小田原市の合併が決まる前に、僕らの意見を誰かに伝えたいな。人口減少の問題と合わせて、小田原市の市役所の人や市長さんとかに意見を伝えられないかな。でも、目的から少しそれちゃうよ。じゃあ、人口減少について取り組んだ後、その取り組みを市役所の人や市長さんに伝えようよ。

小田原市の人口減少を改善するために、何が出来るか？⑲

- ・小田原市の人口減少止めるために、動画を作ってみたいな。・子育てをしている人たちに、小田原市に住みたいと思ってもらえる本を作りたいな。・まずは、小田原市に来てもらって、小田原のファンを増やす取り組みがしたい。・人口減少の問題について、もっと知ってもらいたいな。
- ・色々な方法は出てくるけど、誰に伝えたらいい？ ★誰に伝えたら、人口減少の改善につながるのなか？

誰に伝えたら、人口減少が改善できるのか？⑲～21

小学生	中学生や高校生	子育て世代	小田原市内の人	小田原市以外の人
・今の小学生が大人になった時に、小田原に住みたいと思ってもらえるように小田原の魅力や魅力を伝えた方が良さそう。人口減少の問題が起きていることももっと知ってもらいたい。	・これから小田原を出ていく可能性がある人たちに、この問題を知ってもらいたい。大人になった時に、就職する場所の1つとして、小田原のことも考えてもらえるかも。	・小田原は住みやすい所だけど、子育てがしやすい所ということがまだまだ知られていない。これから子育てをする人や今子育て中の人に、小田原の住みやすさを伝えたい。	・小田原市に住む人たちは、小田原の良さを当たり前だと思っているかもしれない。少しでも小田原の良さを知れば、外に出ていく人も減っていくと思う。	・小田原市以外の人にもっと小田原に来てもらいたい。住みやすさを動画などを使ってアピールすれば、小田原へ引っ越してみたいと思う人が出てくるかも。

◆焦点化のポイント→・小田原市内の人に伝えるか、市外の人に伝えるか。・学生に伝えるか、子育てをしている人に伝えるか。

伝えたい人に合わせた方法で、小田原市の人口減少を改善しよう。22～33

伝えたい人に分かれて、グループで取り組む内容を決めよう。  
この取り組みで本当に良いのかな？→やる事が決まったら、みんなからも意見が聞きたいな。

◆国語『パネルディスカッションをしよう』と関連させて学習する。(10時間)

市役所の人からもアドバイスをもらいたいな。★途中経過をプレゼンしよう。

三の丸の小学生	他校の小学生	中学生や高校生	子育て世代の人	小田原市内の人	小田原市以外の人
・校内の人たちに小田原市の人口減少の事について、劇にして伝えたい。	・他の学校の小学校に、人口減少の事や小田原市の住みやすさを伝える本を作って置かせてもらえるようにしたい。	・人口減少について考えてもらえるような新聞を作って、城山中学校や小田原高校の生徒の人に読んでもらいたい。	・小田原市で子育てする時に便利な場所や子育てをする時のサービスなどをチラシにして紹介したい。マロニエなどに置いてもらう。	・タウンニュースやケーブルテレビに協力してもらって、小田原市の人口減少の問題や小田原の魅力について伝えたい。	・観光に来てもらい、小田原の魅力を知ってもらうために、観光名所や小田原の特産品を紹介する動画を作成して、HPにアップしたい。
○校内の人なら伝えやすい。△劇をやるには人数がある程度必要だから、クラスで取り組んだ方が良さそう。	○他校の人にも本なら気軽に読んでもらえるかも。△本を置いていただけは読まないから、直接PRする必要があると思う。	○進学して、小田原以外の地域に行ってしまう生徒も多いと思うから、新聞で伝えるのは良いと思う。△小学生が書いた新聞を年上の中学生や高校生が読むとは思えない。	○子育てについてのチラシとかが小田原市の施設にはよく置いてあるから、チラシなら持っていつてくれると思う。△小田原市で子育てしている人は小田原以外に住むことってあまりない気がする。	○ケーブルテレビとかで放送してもらえれば、たくさんの人に、人口減少の事を知ってもらえる。△協力してもらえるだけのしっかりした情報を集めないといけない。	○テーマを決める時に調べたアイデアも使えそう、良いと思う。△観光の動画と違って色々な紹介するものがあるから、テーマをしばって作った方が良い。

◆市役所の企画政策課の方に来て頂き、取り組みについてアドバイスをもらう。

★市役所の方やみんなからもらったアドバイスをもとに、取り組みを進めよう。

【取組後の感想】

- ・人口減少の事学校のみんな知らなかったから驚いていたね。・動画を見てくれる人が毎日100人もいるのってすごいよね。
- ・ケーブルテレビの人に協力してもらって、僕らの取り組みを知ってもらえて良かった。

小田原市の人口減少問題を改善する取り組みについて発信することができる。【表現力】

★僕らの取り組みをもう一度、市役所の人に伝えたい。市長さんに合併のこととかも意見を伝えたいな。※市長さんが無理なら市議会議員さん。

小田原市長さんに、僕らの考えや取り組みを伝えよう。33～38

- ・各チームの取り組みを3分くらいでプレゼン。・合併の問題について、小学生としての意見を伝えよう。

これまでの活動を振り返ろう。39、40

- ・小田原市の人口減少について知って、自分のまちのことをもっと考えていきたいと思った。・将来、小田原市で自分は働きたい。・小田原市の魅力について、こらからも自分が伝えていきたい。・小田原を将来離れたとしても、また戻ってきたい。

これまでの人口減少への自分たちの取り組みを振り返ることができる。【自己を振り返る力】

## 6 本時について

- (1) 本時目標 小田原市と南足柄市の合併について話し合う活動を通して、小田原市と南足柄市の合併をどうしていくべきか考えることができる。
- (2) 本時展開

主な学習活動	主な支援・留意点 ☆評価【観点】
<p><b>小田原市と南足柄市の合併について考えよう。</b></p> <p>◆賛成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合併することで、10年間で約150億円の財政効果が現れる。</li> <li>南足柄市の人にとって、向上する市民のサービスが27%もある。</li> <li>どちらの市もこのままだと人口が減少していく、税金を納める人も減っていくから、合併して人口を増やした方が良い。</li> <li>市長や議員さんなどの人数が少なくなって、年間18億円削減される。</li> <li>小田原市と南足柄市の魅力を含ませた取り組みなどがこれからできる。</li> <li>(観光や自然環境などの取り組み)</li> </ul> <p>◆迷い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>離れた地域までサービスが行き届かないかも。</li> <li>南足柄市の人にとって、自分たちの市の名前がなくなるのは悲しい。</li> <li>少ない人数で市の仕事をするので、サービスが低下する可能性がある。</li> <li>小田原市の合併についての資料には、デメリットのことがほとんど書いていない。合併による問題点をもっと考えてから合併すべき。</li> <li>下水道の料金値上がり ・独自のサービスがなくなる。</li> <li>南足柄市の人の意見が通りにくくなる。</li> </ul> <p>◆合併に反対</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合併しなかったとしたら、小田原市も南足柄市もお金の面で窮乏になる。</li> <li>グラフを見る限り、サービスは向上するものが多い。</li> <li>多くの市民は、財政の不安を感じている。</li> <li>小田原市という名前になっても、地域の名称は残るようにしたら良い。</li> </ul> <p>◆資料を貼る</p> <p>◆一時には人口は増えるかもしれないけれど、人が少なすぎる地域が出てきて、そのことについての問題が起きる可能性がある。</p> <p>◆議員さんが少なくなると、僕たちの意見があまり聞いてもらえなくなる。</p> <p>◆小田原市の人にとっては、あまりサービスが豊かになっていない。</p> <p>◆まだまだそれぞれの市で取り組めることがあると思う。</p> <p><b>合併をどうしていくべきか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>南足柄市の人たちにとって、合併によって不安な点をもっと聞くべき。</li> <li>合併のことについて、もっとたくさんの人に情報を伝えると良い。(メリット、デメリットどちらも)</li> <li>みんなにもう少し考えてもらうために、合併することを決める時期を延期する。</li> <li>最後は、住民投票で決めた方が良い。 ・合併が決まってからもしっかりと説明をしていく。</li> <li>中心から離れた地域の人もサービスが受けられるように、市役所の代わりにする施設を作る。</li> <li>小田原と南足柄、それぞれの良さを生かした合併。→お互いの街の良さを知る活動</li> </ul>	<p>☆子どもたちに最初から話し合いを任せて、教師は必要な情報を振書していく。(情報の整理)</p> <p>☆少数意見から取り上げることで、発言しやすいようにする。</p> <p>☆クラス全体での話し合いだけでなく、ペアやグループでの話し合いの時間を取り、全体で発言できない児童にも発言の機会を与える。</p> <p>☆話し合いを焦点化するための資料を提示する。</p> <p>◆南足柄市に住む人の意見</p> <p>◆小田原市と南足柄市の財政の推移</p> <p>◆小田原市の人たちの市民アンケート結果</p> <p>☆話し合いをさらに焦点化するための資料と発問を提示</p> <p>◆H29年度に市長岡本が判断、アンケートもすでに終了、(住民投票はない)→合併することが概ね決まりつつある。</p> <p>★「合併をどうしていくべきか」を考えさせる。</p> <p>☆評価規準【問題解決の能力】</p> <p>◆友達と意見を交流しながら、小田原市と南足柄市の合併の問題をどうしていくべきか考えることができる。</p>

## 7 実践を終えて

子どもたちが互いにプレゼンをし合いながら、議論しテーマ決定を行ってきた。その結果、決まったのが『人口減少を改善する』というテーマだった。子どもには解決しようがないような難しいテーマであったが、それでも子どもたちは熱心にこの問題について考え続けたと考えている。

本時においては、人口減少と関連して、子どもたちの疑問の1つにあがった『小田原市と南足柄市の合併について』話し合った。『小田原市と南足柄市の合併についてどうしていくべきか』賛成、反対、迷い、それぞれの立場に分かれて議論する中で、この問題をどうしていくべきなのか、子どもたちなりに真剣に議論する姿が見られた。事前に手に入れた、賛成派の資料や反対派の資料を上手く活用し、自分たちのまちについて、真剣に考える子どもたちの姿から、本時の問題が子どもにとって解決したい問題になっていたと考える。また、本時が終わった後に、書いている意見文等にも、討論後の変容や意見の深まりが見られた。意見のずれがはっきりしている学習問題だからこそ、合併について考えを深めるひびき合う姿があったように思う。

その一方で、話し合う内容が深まれば深まるほど、議論する内容が専門的な難しいことになっていった。そのため、途中で話し合いについていけない子どもが数人出てきた場面があった。ついていけない子がいた時に、教師が話し合いを整理したり、分かりやすい話題を子どもの意見から取り上げたりするなど、教師の出所の工夫が必要だったように考える。また、子ども自身が、分からない時に「ちょっと待って」「分からないから、もう一回言っで。」のような立ち止まる言葉を自然と言える雰囲気づくりが必要だと感じた。